

ご近所の お医者さん

2018.9.11
初日(m)27

469

大阪医科大付属病院
循環器内科診療科長

星賀正明さん

—高槻市

急増する心不全

高齢化が急速に進む中、心不全で入院する患者が激増しています。昨年10月末に、日本循環器学会と日本心不全学会が一般市民向けに「心不全とは、

心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気

です」という定義を公表しました。

わが国では100万人を超える方が心不全で苦しんでいると推定され、現代は「心不全パンデミックの時代」と

も呼ばれています。パンデミックとは元々、感染症の流行を三す言葉ですが、心不全患者の急増をパンデミックと呼んで警鐘を鳴らしているのです。

心不全の典型的な症状は体動による息切れで、進行すると動けなくなりま

口腔内の健康が鍵

も報告されるなど、今や循環器医は口腔内の

性肺炎は食事や水分を取るとむせる人へのみ起こるのではなく、むしろ口腔内の不衛生を原因として発症することが多いとされます。高齢者の心不全では口腔内の衛生環境や筋肉の健康状態が重要です。

口腔内の健康と循環器病が関係することは一般にはあまり知られていません。しかし、歯周病と動脈硬化の関連

す。そうすると筋力が衰え、食欲が損なわれます。筋肉量も減り、虚弱状態になります。全身の筋肉の衰えに先立

って、かむ力が弱くなることも指摘されています。特に高齢者の心不全では、栄養不足が生じ、嚥下障害から誤えん性肺炎を起こす、という悪循環になります。

わが国の死因第2位は心臓病（心不全）ですが、第3位の肺炎の大半が誤えん性肺炎とされています。誤えん

性肺炎は食事や水分を取るとむせる人へのみ起こるのではなく、むしろ口腔内の不衛生を原因として発症することが多いとされます。高齢者の心不全では口腔内の衛生環境や筋肉の健康状態が重要です。

健康に絶えず注意を払わねばなりません。予防医学の観点からも口腔内の健康を保つことが鍵と考えています。そこで今、高槻市では「市民の健康寿命を延ばす」ことを目指して、行政（高槻市）と産業界（高槻商工会議所）、大学（当大学の口腔外科、循環器内科、衛生学・公衆衛生学教室）の産官学がタッグを組んで、口腔内環境と健康指標の疫学調査に取り組んでいます。乞うご期待。

（府医師会理事）

